

## 幕末から明治にかけて偉人を輩出した学問所

### 01 多久聖廟

「敬は一心の主宰、万事の根本にして、万世聖業の基本たり」。多久4代領主多久茂文は、教育を振興し、敬の心を育むため、1708年に多久聖廟を建てました。その思いが「文廟記」に記されています。また、多久を四靈(麒麟・鳳凰・龍・龜)の住む理想郷にしたいという茂文の思いが、聖廟の彫刻や絵などに表れています。聖廟内には孔子や顔子、曾子、子思子、孟子の像が安置されており、年2回(4月18日、10月第4日曜日)孔子様と四配を祀る伝統行事「釀菜」が行われています。



### 東原庠舎が輩出した多久の偉人



鶴田皓 (1835~1888)

明治刑法の草案を上申。  
商法等の近代法編さんにあたる。



高取伊好 (1850~1927)

炭鉱王。多久村に西渓公園、図書館、寒鶯亭を寄付するなど、社会に大きく貢献。



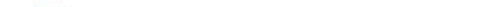
志田林三郎 (1855~1892)

日本初の工学博士。電気学会を設立。  
現在の高度情報化社会の到来を予見していた。



### 03 西渓公園

多久家の家老屋敷跡を、多久出身の炭鉱王「高取伊好」が購入し、大正9年から13年にかけて整備した山水公園です。園内の寒鶯亭や図書館(現存するのは書庫部分のみ)とともに多久村に寄付しました。春は桜、秋は紅葉の名所で、多くの観光客でぎわいます。



### 04 寒鶯亭

「寒鶯待春」…「冬の間、鶯は春に備えて一生懸命笛鳴きをし、春に美しい声を出す。」多くの村人も人物として世に出るため、この公会堂で学んで欲しいという高取氏の思いが込められた建物。会議や休憩所等にも利用できます。



### 各施設問合せ先

01 公益財団法人孔子の里  
02 03 04 指定管理者 西九州建設(株)  
05 06 07 08 09 一般社団法人 たく21  
0952-75-5112 0952-74-3591 0952-20-2203

## 古き良き文化と新たな芸術のまち



### 05 多久山笠提灯山

多久山笠とは、毎年8月15、16日にJR多久駅前の筋原(あざみばる)・砂原地区で行われる恒例の夏祭りで、70年を超えて引き継がれています。いくつかの変遷の後、昭和60年から砂原地区との共催行事として行われ、今では多久市の代表的なお祭りへと発展しました。お祭り当日は、夕方になると飾り付けられた二台の山笠と高さ6mもある四角型と三角型の提灯山笠が笛や太鼓の音色を響かせながら、多久駅前大通りをおよそ1kmにわたって練り歩きます。提灯山の組み立ては、山笠の1番の見どころです。



### 06 多久山笠人形山



## 作者の個性が光る31か所 ウォールアート



### 07 カクテルハウス からつや 作: Gravityfree

楽しいお酒と楽しい音楽をモチーフに描かれています。隠れキャラもいるのでぜひ探してみてください。



### 08 Art studio ポンドバ 作: 富永ボンド

人と人のつながりをボンドで描いた作品。カラフルな色彩と他にはない立体的なマチエール(材料)が特徴。



### 09 Bar ばらーど 作: 早川 康司

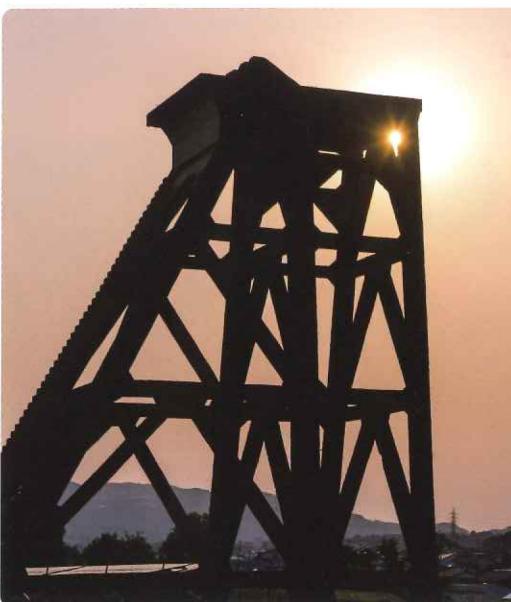
ダイナミックに描かれた名プレイヤーたちの演奏風景がオシャレな一夜を演出します。

## 日本の産業革命を支えた石炭採掘

### 旧三菱古賀山炭鉱の豊富な歴史

現在も残る旧三菱古賀山炭鉱の豊富な歴史。巻き上げ機とやぐらが分離したシングルヘッドフレーム形式。立体ラーメン構造の鉄筋コンクリート製やぐらは他に見られない構造です。

[所在地] 多久市東多久町大字別府4309-2



05 06 07 08 09 一般社団法人 たく21  
0952-20-2203